

武蔵とのソバ対決に敗れた梅軒は一計を案じ、再び武蔵に挑む。先ごろ、どんぶりを打ち物にしたがために武蔵に敗れた梅軒が次に選んだものは大きな椀である。すなわち今度は「わんこソバ」で挑もうと言うのである。

果たして武蔵は梅軒めがけて真新しい割り箸を左に、剣を右にして打ち込もうとした。と、その刹那、武蔵の両の腕が止まった。(SE 犬の鳴き声) 「くっ、わ、わんこ……ソバ」 「武蔵、敗れたり。これがまことのわんこソバ。ソバは犬の下にあり。犬をよけながらソバが食えるか、いざ、いかに！」武蔵はがつくりとその場に膝をついた。生涯ただ一度の敗北と言ってよいだろう。このあと、梅軒はネコを入れた「にゃんこソバ」をはじめ、「たぬきソバ」「きつねソバ」「にしんソバ」など次々と今に残る「動物ソバ」メニューを編み出した。ソバ屋を生業としていた梅軒(うめけん)が「バイケン」と号したのはこのときからである……(FO)